科目名	学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語Ⅲ : Japanese Ⅲ	3EC	2	90分×30回	履修	講義・通年	―

教員名	畑村学 : HATAMURA Manabu
授業概要	1年間を定期試験を区切りとして4つに分け、前期は、(1)読解と要約――文章を読み大事な箇所やキーワードを探す、主観と客観により線を引き分ける、要約文を書く、(2)図解――文章を構造化する簡単な図の作成、図を説明する説明文の書き方――を学習する。後期は、(3)ディベート・スピーチ――ディベートは、ディベートのやり方を学習し、実際に少人数のディベートを行う。スピーチは、1～3分間で、図解資料を利用して行う。話し方だけでなく、聴き方、質問の仕方を学習――、(4)作文・小論文――就職や進学など進路を意識した自己PRを目的とした作文や小論文を書く。 これ以外に、1年間を通じて漢字テスト(漢字問題集)、読書(年間20冊。一行感想)、ディクテーション(聞き書き)を継続して行う。また、高校3年生という人生の岐路に立つ学年であることを踏まえ、、1年間を通じてキャリア教育を兼ねた授業を実施する予定である。

到達目標	評価方法
(1)読書の習慣が身につく。読んだ本に対してコメントが書ける。大事な箇所やキーワードに線を引き分けながら文章が読める。(読む力) (2)型を利用して文章が書ける。文章の内容を要約する簡単な図が書ける。漢字検定3級をクリアできる程度の漢字の知識が身につく。(書く力) (3)ディベートやスピーチの基本を学習し、テーマや構成が明確であり、根拠に基づいた説得力のある話し方(声、態度、資料の示し方)ができる。(話す力) (4)スピーチの評価ができる。スピーチに対して具体的で本質的な質問やコメントができる。ディベートで尋問や反駁ができる。(聴く力)	①定期試験(中間・期末試験)、②レポート及び提出物により評価する。各評価は、①定期試験60%、②レポート・口頭試問等40%とし、4回の評価の平均を学年末の成績とする。

学習・教育目標	(G)①	JABEE基準1(2)	

回	項目	内容
第1	ガイダンス	国語の授業概要・到達目標・成績評価方法等をシラバスを中心に説明し、一年間の授業内容を理解する。
第2	読解と要約①	「要約」とは、複雑な事象のなかから大事な箇所を抜き出し、それを整理して提示したものである。情報化社会では、大量の情報の中から重要なものを選び、秩序立てて再構成する作業には「要約力」が必要となる。また、要約力は、対話やコミュニケーションにおいても必要である。 授業では、教科書や教科書掲載以外の文章を教材として要約力を鍛える。具体的な作業として、文章に線を引いたり、キーワードに印をつけながら読んでいく。線の引き方にはポイントがあるので、最初にそれを学習してから文章を読む。 線を引いた箇所を引用して「要約文」 を書く。シンプルな要約文では、7～9割は本文の引用であり、残りがつなぎの言葉や補足の言葉である。線を引いたもっとも大事な箇所や、文中のキーワードは必ず要約文に引用する。 以上の作業を授業やレポート等でくり返し行うことで、要約力を養う。
第3	読解と要約②	
第4	読解と要約③	
第5	読解と要約④	
第6	読解と要約⑤	
第7	読解と要約⑥	
第8	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
第9	図解①	文章を読解・要約するための図の基本的な書き方を学習する。また、図を説明する説明文の書き方を理解する。 国語で言う図とは、文章の構造を理解して、文中の「関係」を、文中の語句や表現を利用しながら、矢印や図形を使って簡潔に表すことである。 図は最もシンプルな要約である。複雑な物事や事柄をわかりやすい図として提示できる能力は、プレゼンテーションなどでも必要とされる。 テキストは教科書に掲載される現代文や漢文および新聞記事、広告などを用いる。 レポートとして、身のまわりの様々な事象を図解する。
第10	図解②	
第11	図解③	
第12	図解④	
第13	図解⑤	
第14	図解⑥	
第15	図解⑦	

回	項目	内容
第16	ディベート・スピーチ①	ディベートの授業では、ディベートの目的や基本的なやり方を学習した後、実際にディベートを行う。ディベートは、3人一組(肯定側1名、否定側一名、、司会兼審判1名)のマイクロディベートから、8人一組(肯定側2名、否定側2名、司会兼審判4名)など、毎時間繰り返し行うことで、論理的思考力、人を説得するための話し方、説明の仕方を習得する。 スピーチでは、図解資料を使って、自己PRを目的としたスピーチを行う。この授業を通じて、効果的な話し方や態度、図の説明の仕方だけでなく、聴き方、質問・コメントの仕方も習得する。
第17	ディベート・スピーチ②	
第18	ディベート・スピーチ③	
第19	ディベート・スピーチ④	
第20	ディベート・スピーチ⑤	
第21	ディベート・スピーチ⑥	
第22	ディベート・スピーチ⑦	
第23	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
第24	作文・小論文①	「小論文」が、社会問題に対して知性や論理性をアピールするものであるのに対し、「作文」は、読み手に対して自分の人柄や性格などを、エピソードを交えて述べる文章である。 3年生の作文の授業では、自己PRを目的とした200～800字程度の文章を書く。その際、必ず文中にインパクトのある「キーワード」を使い、そのことが伝わるような具体的なエピソードを入れる。 小論文の授業では、現代社会の諸問題をテーマに取り上げ、説得力のある根拠を用い、段落構成を意識した文章を書く技術を習得する。
第25	作文・小論文②	
第26	作文・小論文③	
第27	作文・小論文④	
第28	作文・小論文⑤	
第29	作文・小論文⑥	
第30	作文・小論文⑦	

自学自習の内容	レポートの完成度や提出状況などで判断する。
関連科目	国語Ⅰ、国語Ⅱ
教科書	精選現代文(東京書籍)・精選古典(東京書籍)
参考書	『ステップアップ高校漢字問題集(東京書籍)・カラー版新国語便覧(第一学習社)
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。
副担当教員	
備考	プリントをファイルするバインダー等を各自準備。授業時に読む本を持参すること。